

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

オオタバコガの発生状況と防除対策（技術情報 8 号）について（送付）  
このことについて、野菜及び花き類で被害が問題となるオオタバコガの発生状況を、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考資料としてご活用下さい。

## 記

### 1 概要

現在、フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺数が増加しており、オオタバコガの食害による被害が多かった昨年とほぼ同じ水準で推移している。今後、発生量が増加し、各作物に被害を与える可能性があるため、本害虫の発生に十分注意して防除を行う。

### 2 オオタバコガの発生状況

- (1) フェロモントラップによる本年 7 月 6 半旬～8 月 1 半旬の誘殺数は、生産環境研究所（合志町）では 2 6 2 頭（平年 6 2 . 3 頭、昨年 2 8 2 頭）で、平年に比べ非常に多くなっており、被害が多かった昨年とほぼ同等に推移している。  
また、い業研究所（鏡町）では平年に比べやや多く、清和村鶴底では昨年に比べやや多く、波野村波野では昨年並に推移している（グラフはホームページ参照）。  
なお、本年は何れの地点においても 6 月中旬から 7 月上旬にかけての誘殺数が、平年あるいは昨年に比べて多かったことから、現在も野外での生息密度が高くなっていると推察される。
- (2) 今後の気象については、福岡管区气象台が 7 月 2 4 日に発表した九州北部地方の 3 ヶ月予報によると、8 月～1 0 月の気温は高く、降水量は平年並の予想である。このため、今後は、高温によりオオタバコガの発育が促進され、発生量や発生世代数の増加等が考えられ、本虫による被害の拡大及び長期化が懸念される。  
なお、過去にオオタバコガの発生量が多く被害が問題となった H 6 年、H 1 0 年、H 1 3 年、H 1 4 の気象も、夏期から秋期にかけては高温少雨で推移しており、本年も十分な注意が必要である。
- (3) オオタバコガは例年 9 ～1 0 月にかけて発生量が多くなり、各作物に被害を与える。現在栽培されている夏秋作野菜やキク等に加えて、今後は、冬春作野菜や花き類の作付けが本格的に始まることから、本虫の発生に十分注意して防除を行う必要がある。

### 3 防除上注意すべき事項

- (1) 本害虫は連続的に発生するため、圃場内をよく観察し早期発見に努める。
- (2) 老齢幼虫になると薬剤の殺虫効果が低下する。早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- (3) 果菜類では、幼虫が果実の中に食い入っている場合があるため、被害果は早期に摘果、処分し、その後の発生を抑制する。また、摘芯、摘果した腋芽や花蕾等は、本害虫の卵や幼虫がついている場合もあるため、ほ場内や周辺に放置しない。
- (4) 施設栽培では施設開口部を防虫ネット（4 mm 目以下）で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- (5) 農薬の使用にあたっては、必ず農薬ごとに定められた使用基準を守り、安全な農産物の生産に努める。

熊本県病害虫防除所ホームページアドレス

<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/>

|  |
|--|
| 熊本県農業研究センター<br>生産環境研究所病害虫研究室<br>予察指導係（病害虫防除所）<br>担当：曾我、前田<br>電話：096(248)6490<br>FAX：096(248)6493 |
|--|